

[国 語]

シンキングツール活用による主張の練り上げ

高橋 祐子*

1 問題の所在と児童の実態

(1) 話し合い活動における能力の育成について

学習指導要領における、高学年の話し合うことについての目標は、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、計画的に話し合う能力を身に付けさせる」である¹⁾。ここでの計画的にというのは、考えや伝えたいことを十分に練り上げたり、話し合いの過程において、司会や提案などの役割を各自が理解し、それぞれに役割に応じて協力し合いながら円滑に運営できるようにしたりすることを示している。

上記の学習指導要領の目標と内容と、普段の話し合い活動における学級の児童の実態とを照らし合わせると下記の様子が見られる。

『計画的に話し合う能力』

- 司会、書記などの役割分担をし、それぞれの役割を理解して話し合い活動に取り組める。
- 話し合いに向け、自分なりの考えをもって文章にまとめることができる。
- △根拠を基に考えを述べたりする経験が少ないためか、主張が信憑性に欠けてしまう。
- △自身の考えに自信がもてず、発言することに抵抗がある。

上記の姿から、話し合い活動を行う上で、根拠を基に自分の考えや意見を述べることについての力が弱い実態がある。話し合い活動の中での主張をより信憑性のあるものにするためには、やみくもに考えを並べたり、自分の想像の中での内容をまとめたりするのではなく、自分の立場やそれに関する考えを整理して、厳選する必要がある。

児童の思考をサポートするために、黒上晴夫(2015)は、下記の4つのフェーズを意識する必要があると述べている²⁾。

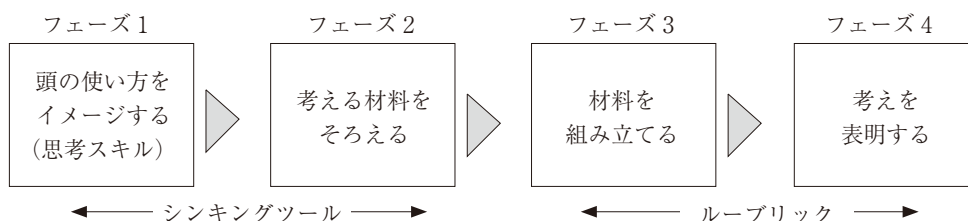


図1 思考をサポートする上での4つのフェーズ

黒上は、「そろえたものを、使いやすいように並べる土台がシンキングツールである。シンキングツールにアイデアを並べることによって、頭的使用が可視化される」とも述べている²⁾。児童が集めた、または考えた情報が可視化されることで、主張内容が整理され、主張がよりのが絞られたものや根拠がはっきりとしたものになると考えられる。

(2) 話し合い活動に対する、児童の意識について

実践前に、担任児童(6年生35名)に対して、話し合い活動における意識アンケートを行った。結果は表1の通りである。

表1 話し合い活動における児童の意識調査

話し合い活動で、自分の意見を発表することがすきか	
すき (17% : 35人中6人)	【理由】 ・話し合ったり、意見を言ったりするのがすき ・自分の意見を分かってもらえるのがうれしい
ふつう (26% : 35人中9人)	【理由】 ・発言したい、自分の意見を分かってもらいたい ・意見はあるけど言おうか迷う ・間違えたらいやだ、他の人と同じなのかというのが心配 ・ちょっと自信はないけど、話すことは好き ・考えが出てくるときとそうでないときがある

* 柏崎市立新道小学校

あまり好きではない (57% : 35人中20人)	【理由】 ・意見や考えが思い浮かばない ・間違えたら恥ずかしい、あっているか心配 ・なんて言えばいいか分からないときがある ・人前に出てしゃべるのが苦手 ・自信や勇気がないから
どのような環境があれば、自分の考えを発表する自信がもてるか	
・一人ではなく、友達やみんなと一緒に言えば自信をもっている ・みんなが自分の意見をしっかり聞いてくれる ・少ない人数の中で発表するなら発表しやすい ・班やグループで話し合ってからなら発表しやすい ・自分の意見が、回りの人と同じ時	

上記の結果から、ほとんどの児童が全体の前で自身の意見を発表することに消極的な傾向にある。ただ、「あまり好きではない」と答えた児童の多くは、グループでの活動を経ることによって、意見や考えに自信が持てると回答していた。この傾向から、児童が自信をもってよりよい主張を練り上げるために、グループ活動を取り入れる必要があることが分かった。

以上の2点をふまえ、話し合いの活動において、児童がアイデアを広げたり、それを整理したりして計画的に話し合う能力を育成する手立てとして、グループでの主張の練り上げにシンキングツールを取り入れた実践を行った。

2 研究の目的

討論会で、児童が自身の考えや調べたことを整理する段階にシンキングツールを組み合わせて取り入れることが、より深まりのある主張を考えることに有効かを明らかにする。

3 実践の内容と方法

次の手立てを用いて、「立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう～学級討論会をしよう～」の授業実践を行った。本実践では、2回の討論会による比較調査を、使用したワークシート（シンキングツール）、ノート、授業記録、授業の振り返りの内容の分析から、研究の成果と課題をまとめる。

まず本実践での、活動を問題の所在で取り上げたフェーズに当てはめると次のようになる（図2参照）。

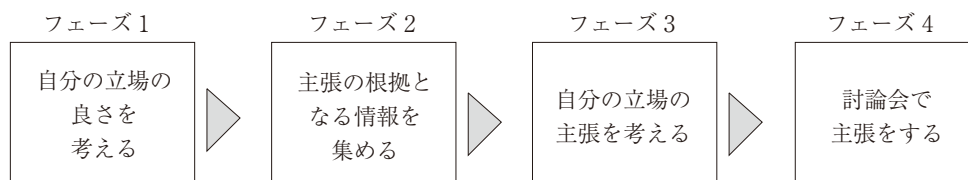


図2 本実践の流れ

本実践では、フェーズ1の段階で「イメージマップ」、フェーズ2で「ボーン（魚骨）図」を使用することにした。

(1) イメージマップを用いることで、多面的な見方を促す

より内容の濃い主張を練り上げるためには、主張する立場に関連している様々な事柄を連想することが必要である。様々な事柄に関連づけながら、自分の主張する立場の良さを考えるために、拡散的な思考を促すイメージマップを活用した。より説得力をもつ主張を目指すという観点から、自分達の主張に必要な事柄を、イメージマップに挙げられた事柄の中から選ばせた。

(2) ボーン（魚骨）図を用いた、主張内容の整理

横山（2015）は、理由と根拠が混在していた段階から、理由と根拠を分けて書き込むことで、理由だけでなく根拠に何を持ってくるかによって、相手の納得度が違うことを実感していくように仕掛けるために、ボーン（魚骨）図を用いている³⁾。本実践では、イメージマップから選んだ事柄を理由の欄に書き込み、その事柄の根拠がはっきりしているかを整理するために、ボーン図を用いた。

4 実践の概要

(1) 単元名 「立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう」

(2) 教材名 「学級討論会をしよう」

(3) 単元の目標

○討論会の形式や話題に興味をもち、積極的に参加しようとしている。

○話題に対する両方の立場で自分の考え方、感じ方をもっている。

○自分の主張・根拠と対比しながら討論を聞き、質問や話題に対する考えをもっている。

(4) 実践対象・実施時期

①実践対象 小学校第6学年 35名（男子15名 女子20名 計35名）

②実施時期 平成29年9月

(5) 指導計画（全8時間）

次	学習指導	評価規準と評価方法
第1次	1 ・ 討論会の進め方と準備するものを知る。	◎討論の進め方を知り、積極的に参加しようとしている。【観察】
	2 ・ 説得力のある意見の述べ方を知る。 ・ 討論を聞くときに大切な観点を知る。	◎討論の進め方を理解し、よりよい主張の仕方に気付いている。【観察】
第2次	3 ・ 第1回目の討論会の準備をする。	◎資料や情報を集め、主張に対する確かな根拠をもっている。【ノート】 ◎予想される主張は何かを考え、意見や質問を考えている。【ノート】 【発言】
	4 ・ 第一回目討論会を行う。	◎大切な観点を理解し、主張を正しく聞き取っている。【ノート】
	5 ・ 討論会の振り返りを行う。	◎意見に対して自分の考えや質問をもって聞いている。【ノート】【発言】
第3次	6 ・ 第二回目の討論会の準備をする。	◎資料や情報を集め、主張に対する確かな根拠をもっている。 【ノート】【ワークシート：シンキングツール】 ◎予想される主張は何かを考え、意見や質問を考えている。 【ノート】【発言】
	7 ・ 第二回目討論会を行う。	◎大切な観点を理解し、主張を正しく聞き取っている。【ノート】
	8 ・ 討論会の振り返りを行う。	◎意見に対して自分の考えや質問をもって聞いている。【ノート】【発言】

(6) 実践形態

本実践では、主張→尋問→結論という流れを基本とする反駁型のディベート形式で討論会を行った。討論会の流れは下記の通りである。また、児童を1グループ5～6人のグループを編成した。討論会では、それぞれのグループが司会（1グループ）、主張（2グループ）、聞き手（3グループ）と役割を受け持った。また、討論会では毎回議題を3つ用意し、自分のグループがどの議題で話し合い、どちらの立場の主張を考えるのかは、くじ引きを行って決定した。

- | |
|--|
| <p>①はじめの主張</p> <p>②相談タイム（5分）【主張】どんな質問がくるか予想し、その回答を考える
【聞き手】はじめの主張を基にして、それぞれの主張グループへの主張を考える</p> <p>③質問タイム</p> <p>④相談タイム（5分）【主張】質問を受け、最後の主張を考える
【聞き手】はじめの主張と質問の回答から、それぞれの主張の内容をまとめる</p> <p>⑤最後の主張</p> <p>⑥相談タイム（5分）【聞き手】今までの内容と最後の主張を基にして、より説得力があった立場を選ぶ</p> <p>⑦まとめ【聞き手】説得力があった立場にはよかった点を、もう一方にはアドバイスも考える
※司会グループにはシナリオを渡し、それに沿って討論会を進めた。</p> |
|--|

(7) 授業の実際

討論会を始める前に、教科書のCDを活用し、討論会の流れを確認した。また、主張を練り上げていく段階では、聞き手に納得してもらえる主張にするには、その立場が良いという理由に根拠を加えることの必要性を伝えた。

① 1回目の討論会（シンキングツールなし）と、児童の討論会の振り返り

下記の3つの議題で1回目の討論会を行った。

○季節は、夏がいいか、冬がいいか。 ○朝食は、ご飯がいいか、パンがいいか。 ○夏に行くなら、海がいいか、プールがいいか。

主張を練り上げる段階では、児童達はまず、自分の立場が良いという理由を考え始め、ノートにまとめていった。その後は、考えた理由のみを使って主張をまとめるグループと、主張に根拠をもたせるために、図書室やインターネットを活用して情報収集を行うグループと活動がそれぞれ分かれていった。前者は、すぐに主張がまとまり練習を始めていた。また後者は、何について調べるかの目的が絞られていないため、情報量が多過ぎたり、自分が望む情報が見つからなかったりし、主張がなかなかまとまらないと困り感をもっていた。

討論会では、はじめの主張を根拠になった本を提示して説明するなどまとまりのある主張をしたグループもあったが、

ほとんどのグループが一言で終わる，調べた情報をそのまま読むような状態であった。質問タイムでは，理由のみをまとめて主張したグループは理由の根拠がなく主張した内容についての質問に対して，また，情報をたくさん集めていたグループは質問された内容の情報がないなどのことが起き，それぞれのグループが回答に困る状況があった。最後の主張についても，はじめの主張と同じ状況が見られた。

まとめの時間において，聞き手グループは情報量の多い主張や資料を提示したグループの主張に説得力があったと評価をしていた。討論会后，振り返りを行い次の討論会で意識することを考えた。児童の振り返りは表2の通りである。

表2 1回目の討論会の振り返り（主張に関する記述を抜粋）

よかった点	うまくいかなかった点	次にかしたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ・発表するところがちゃんと言えた。 ・最後の主張で少しばん回できた。 ・最後の主張をみんなで考えられたし，納得したと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの主張の説明が足りなかった。 ・立場のよさの説明が足りなかった。 ・下調べが足りなかった。 ・質問にうまく答えられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や本，写真を使いたい。 ・はじめの主張を多くして，細かく詳しい説明を目指したい。 ・どんな質問をされるか考えて，質問されたらすぐに答えられるようにしたい。

児童は，実際に討論会を経験し，今回の自分達の主張に根拠が不足していたことや，質問に的確に答えることでより自分達の主張の説得力が増すことに気付いた。その経験を生かし，2回目の討論会では，主張の根拠となる情報を集めたり，主張するときに資料を提示したりすることや，質問を予想しながら情報収集をすることの必要性を考えている。

② シンキングツールシートを使っての主張の練り上げ

2回目の討論会は下記の3つの議題で行った。

○行くなら，動物園か，水族館か。 ○観るなら，ジブリ映画か，ディズニー映画か。 ○行くなら，花見か，もみじがりか。

前回の討論会から，児童は主張の内容に根拠をもたせることで説得力が増すことを実感した。そこで，情報を整理しながら主張を考えられるように，シンキングツールシート（イメージマップ，ボーン図）を提示し，それらを活用しながら主張の練り上げを行わせた。

主張を練り上げる段階では，まず，児童はグループで意見を出し合いながら，連想ゲームの感覚でイメージマップに自分の立場に関連する内容を書き並べていった。書き並べた事柄が自分の立場を押し理由になることを伝えると，主張に使いたい，またはより説得力がありそうと思った事柄を児童は選んで印を付けていった。次に選んだ理由をボーン図に当てはめ，根拠の有無が分かると，情報収集を始めた。情報収集も，1回目に比べると的が絞られていて効率的に進められていた。討論会の相手グループとの比較のデータを収集しまとめたり，有名な映画についても作品名を提示するなど内容がより具体的になったりしていた。

③ 2回目の討論会（シンキングツールシートあり），児童の討論会の振り返り

2回目の討論会では，はじめの主張を述べるときにほとんどのグループが「～が良いと思います。理由は二つあります。一つ目は…」のように主張を理由ごとにまとめて主張をしていた。また，具体的な数値や場所，作品などが盛り込まれた主張をするグループが増えた。

質問タイムでは，主張の内容から不足していると感じた内容の質問が出されていた。主張グループは，シンキングツールシートや調べた情報をメモしたノートを見返しながら，回答していた。ただ，6グループ中3グループは質問なしという状況になった。

最後の主張前の相談タイムでは，シートやノートを見ながら主張をまとめ直したり，考えていた主張を読み返したりする姿が見られた。最後の主張では，はじめの主張や質問を受けての内容になっているグループも6グループ中2グループあったが，他の4チームは予め考えておいていた主張を発表した。

まとめの時間において，聞き手グループは，1回目に評価の決め手となった情報量の多い主張や資料を提示した主張をしたことと合わせて，より具体的な情報を提示してしたグループの主張に説得力があったと評価していた。

討論会后，振り返りを行い次の討論会で意識することを考えた。児童の振り返りは表2の通りである。

表3 2回目の討論会の振り返り（主張に関する記述を抜粋）

よかった点	シンキングツールを使っての感想
<ul style="list-style-type: none"> ・前回より良い主張ができた。 ・はじめの主張がうまくいった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる内容をしぼられてよかった。 ・意見をまとめやすかった。

<ul style="list-style-type: none"> ・写真や図を出して説明できてよかった。 ・インターネットを使っていろいろなことが調べられた。 ・最後の主張で納得してもらえたのがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠が考えやすかった。 ・いろいろなことが思いついた 考えやすかった。 ・マップは考えが広がったが、ボーン図はあまり使わなかった。 ・ノートにまとめる方がやりやすかった。
---	---

5 考察

主張を練り上げる段階でのシンキングツールの有効性を調べるため、ある班のシンキングツールを活用した場合と、そうでない場合とでの主張の内容がどのくらい具体的になるかを、下線を引いて変容を比べた。

(1) 1回目の討論会（シンキングツールなし）

この班は1回目の討論会（シンキングツールなし）では、「夏に行くなら、海がいいか、プールがいいか」という議題で「プール」の立場になった。主張を練り上げる活動で、この班は、自分の経験を基にプールの良さや、ニュースなどで見た情報を挙げ、ノートに書き出していった。練り上げる段階で、本やインターネットなどの調べる活動は行っていなかった。

それらの活動から練り上げたはじめの主張は下記の通りである。

【はじめの主張】

ぼくたちは、プールがいいと思います。理由は2つあります。一つ目は、プールには、ウォータースライダーや温水プール、運動できる場所、あざいところなどのいろんなアトラクションがあり、とても楽しめます。二つ目は、事故率が低いことです。プールは危険生物がいなく、水深が決まっているのでおぼれる人が少ないと思うからです。このようにプールならではの遊びができたり、事故率が少ないのでプールがいいと思います。

この後の質問において、「海は砂浜で滑らないけれど、プールサイドは滑って転ぶのでは。」や「事故率が多いというけれど、どれくらい多いんですか。」など主張で述べた危険性に関する質問をされ、具体的な回答をすることができなかった。そして、最後の主張では、

【最後の主張】

プールのよいところは、水泳の練習ができることです。また、子どももお年寄りも楽しめるアトラクションがあるからいいと思います。

と述べ、主張が終わった。質問への具体的な回答という面で説得力に欠けたため、聞き手は相手の「海」の立場に説得力があったと判断し、「危険性が分かるデータがあればよかった」というアドバイスをした。

(2) 2回目の討論会（シンキングツールあり）

2回目の討論会（シンキングツールあり）では、「観るなら、ジブリ映画か、ディズニー映画か」という議題で「ジブリ映画」の立場になった。

まず、イメージマップ（図3参照）を活用した活動では、自分の立場のよさをできるだけたくさん連想し書き出すことで、主張にどの内容を用いるかの選択肢が増えた。また、書き出した項目がそれぞれでつながりをもっていることが視覚的に分かるため、児童はできるだけたくさんの項目につながっている内容を選び取っていた。例えば、下記のような項目である。

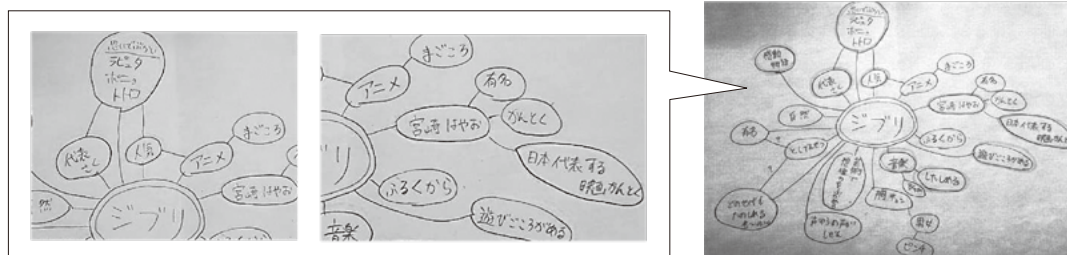


図3 イメージマップ

次に、ボーン図（図4参照）を用いた活動では、イメージマップに書き出した項目を参考にして、ジブリ映画がよい理由を書き出した。この班の児童は、1回目の討論会の経験を基に、具体的な情報や資料を提示することの必要性を感じていたため、図に書き出した時に根拠が薄い項目については、本やインターネットを活用して調べ始めた。根拠を調べる活動においても、どの項目について調べるのか役割分担をしながら、効率的に調べ学習を進めていた。

これらの活動から練り上げたはじめの主張は下記の通りである。
(波線部分は、図4のボーン図からの記述)

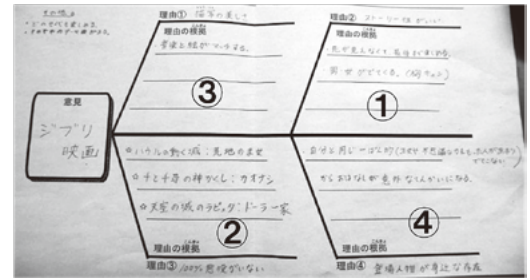


図4 ボーン図への記述

【はじめの主張】

ぼくたちのグループはジブリ映画がいいと思います。理由は二つあります。一つ目は、①ストーリー性がいいという点です。②ジブリ映画は、悪役が最後にいい人になったりします。なので最後に意外な展開になります。なのでワクワクしながら見ることができます。二つ目は、③描写の美しさです。ジブリは細かいところまで色が付けられていて、音楽と絵がマッチしているので、自分がそこにいるかのように楽しみながらみることができます。このような理由から、ぼくたちのグループはジブリ映画がいいと思います。

この後の質問タイムでは、「ランキングはいつのデータですか。」や「他のジブリの作品はなんですか。」などの質問が寄せられたが、それぞれに「2017年のものです」や「耳をすませば、天空の城ラピュタ、崖の上のポニョなどで。」と具体的な回答をすることができた。そして、最後の主張では、

【最後の主張】

ジブリ映画にはいいところがたくさんあります。他に登場人物が「思い出のマーニー」のアンナのように④自分たちに似た境遇の登場人物で身近な存在だったりするので、見終わった後に心が和んだりします。さらに、金曜ロードショーの視聴率の1位は「千と千尋の神隠し」、2位は「もののけ姫」、3位は「ハウルの動く城」、4位は「ハリポッター」、5位は「崖の上のポニョ」です。4位は「ハリポッター」でしたが、上位5位のうちの4つにランクインしています。そして、「千と千尋の神隠し」はアカデミー賞長編アニメーション部門を受賞しています。このアカデミー賞受賞により、世界70か国で「千と千尋の神隠し」が放映されました。ディズニーもいいところがたくさんありますが、ジブリ映画もとてもいいところがたくさんあります。このような理由によりジブリ映画がいいと思います。

この最後の主張が決めてとなり、聞き手からより説得力のある主張であったと評価された。

1回目と2回目とで主張を比べると、主張の内容が増えたことが分かる。また、シンキングツールを活用した2回目の方が、主張の内容がより具体的になったことが分かった。このことから、自分達の考えや、根拠の有無をシンキングツールを活用して視覚化することが、より説得力のある主張の練り上げに有効であったことが分かる。

6 今後の課題

本実践を通して、次のような課題が見えてきた。シンキングツールを組み合わせる使う際に、シンキングツールを使って得た情報を、次のシンキングツールにどのように落としていくかを具体的に説明する必要があることだ。今回の実践でシンキングツールを提示した際、「イメージマップで考えたことが、ボーン図での理由の枠に入る」ということだけを説明し、活動に入った。その結果、両方をうまく活用できた班もいたが、振り返りで6班中2班が「ボーン図はあまり使わなかった」、「ノートにまとめる方がやりやすかった」と回答した。つまり、イメージマップで自分の立場に関する考えは広められたが、そこで出た情報をボーン図につなげられなかったということになる。シンキングツールの良さは、自身の考えが視覚化されることにある。その点を踏まえた上での、活用方法の説明が必要であった。

今回、主張を練り上げる面で、イメージマップやボーン図を活用することの有効性が分かったが、話し合い活動における質問や話し合いの内容の聞き取り方についてもシンキングツールを活用する余地があると考え。今後も討論会における、話し手、聞き手双方の活動の活発化を目指し、指導を改善していきたい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説国語編』, 2008年, 92p
- 2) 関西大学初等部 横山駿也発行 「関大初等部式思考力育成法ガイドブック」 株式会社さくら社, 2015年, 68~69pp
- 3) 関西大学初等部 横山駿也発行 「関大初等部式思考力育成法ガイドブック」 株式会社さくら社, 2015年, 42~43pp